

牛乳・乳製品摂取と3歳児のう蝕との関連

【背景】

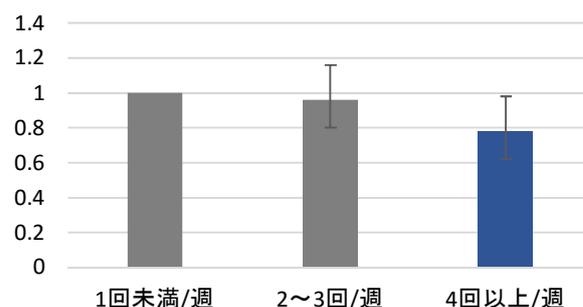
牛乳や乳製品には、カルシウム、リン、カゼインや脂質等の抗齲蝕原性を持つ栄養素が含まれています。動物実験や in vitro 研究では、牛乳や乳製品は齲蝕に予防的であることが示唆されています。しかし、乳製品摂取と小児齲蝕との関連に関する疫学研究結果は、一致していません。今回、福岡小児健康調査のデータを活用して、牛乳及び乳製品摂取と3歳児う蝕との関連について解析しました。

【方法】

調査に参加いただいた2109名のうち、今回の解析に使用する変数に欠損のない2058名の小児を解析対象者としてしました。歯科のデータは、3歳児健診の歯科健診結果を母子健康手帳から質問調査票に転記頂くことで収集しました。食事歴法質問調査票により、過去1ヶ月の食事・栄養摂取の情報を得ました。性別、歯磨き頻度、フッ化物の使用、間食頻度、妊娠中の母親の喫煙、出生後の家庭内喫煙、両親の教育歴を交絡因子として補正しました。牛乳及び乳製品摂取は、摂取頻度により、およそ3分位して解析しました。

【結果】

ヨーグルト摂取の最も少ない群(1回未満/週)と比較すると、最も多い群(4回以上/週)の調整済みオッズ比は、0.78(95%信頼区間:0.62-0.98)と有意な負の関連を認めました。また、傾向性のP値は0.04と有意な負の量一反応関係を認めました。チーズ、パンに塗るバター、牛乳の摂取と齲蝕との間には統計学的に有意な関連は認めませんでした。



【結論】

ヨーグルトの摂取は齲蝕に予防的であるのかもしれませんが。

【出典】

Tanaka K, Miyake Y, Sasaki S. Intake of dairy products and the prevalence of dental caries in young children. J Dent. 2010; 38: 579-83.